

(仮称) 多摩都市モノレール沿線まちづくり方針 (素案) の概要

第1章 はじめに (素案p.1~)

・ 策定の目的

本方針は、令和4年10月にモノレール延伸に関連する都市計画の素案等が公表されたことを受け、延伸を見据えたまちづくりを積極的かつ計画的に、市民等との協働により進めていくために、延伸部沿線のまちの将来像やまちづくりの方針等を定めるものです。

第2章 多摩都市モノレールの延伸計画 (素案p.5~)

・ 多摩都市モノレールの延伸 (上北台~箱根ヶ崎)計画

多摩都市モノレールの延伸計画について説明しています。

第3章 沿線の現況 (素案p.15~)

・ 沿線の現況

多摩都市モノレール延伸部沿線の現況について調査し、地域の特徴等について整理しています。

第4章 沿線のまちづくりに求められること (素案p.31~)

・ 市民等の声

「沿線のまちづくりに求められること」として、上位計画における位置付けや社会情勢のほか、市民、事業者及び子どもたち等からいただいた意見を紹介しています。

(1) 市民等アンケート

令和4年11月に実施したまちづくりに関する意向調査アンケートの結果を紹介しています。

◆アンケート結果の一部

重要だと思うまちづくりのテーマ (上位3位)

- ① 公共交通網の充実により快適に移動できるまちづくり
- ② 生活利便施設の集積による暮らしやすいまちづくり
- ③ 自然を活かし、自然とふれあうまちづくり

(2) 市民ワークショップ

令和5年6月から7月にかけて実施した、まちの将来像等について話し合う市民ワークショップの結果を紹介しています。

市民ワークショップでは、駅ごとのまちの将来像や将来イメージ図を作成しており、これを踏まえて、本方針における各駅のまちづくりのテーマ及びイメージ図を作成しています。

(3) 子どもたちの声

「まちづくり学習」等の場でいただいた、子どもたちの意見を紹介しています。

◆まちづくり学習の様子



第二小学校 (5年生)



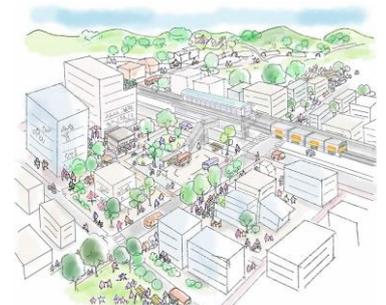
第九小学校 (6年生)



第一小学校 (6年生)



武蔵村山高校 (1年生)



作成したイメージ図

(4) 事業者等の意見

商工会や観光まちづくり協会等の団体・事業者からいただいた意見を紹介しています。

- 沿線の将来像
モノレール延伸後の沿線の将来像を示しています。

将来像 武蔵村山らしさを守り、育てるとともに 人を呼び込み、人のにぎわう楽しいまち

- ポイント1 狭山丘陵の自然や落ち着いた住環境などの武蔵村山らしさ（良いところ）を守り、育てていくことによって、豊かな暮らしやにぎわいの創出に生かしていく。
- ポイント2 駅を中心としたネットワークの整備や都市機能の集積を進めるとともに、人を呼び込むまちづくりを進め、多様な人のにぎわうまちを目指す。

- 沿線におけるまちづくりの方針
沿線におけるまちづくりの方針を、「土地利用」「交通・移動」「環境・暮らし」「安全・安心」「魅力向上・発信」の5つの視点に分けて、21の方針を示しています。
- 沿線のまちづくり
沿線におけるまちづくりの方針に基づき展開していく施策とこれに対応した具体的な取組として「実施中・検討中の取組」と「新たな取組の例」を紹介しています。
- 各駅周辺のまちづくり
駅ごとに地域の特徴を生かしたまちづくりのテーマ、駅周辺の将来イメージ図及びまちづくりの方針を示しています。
各駅周辺のまちづくりの方針に基づき展開していく施策とこれに対応した具体的な取組として「実施中・検討中の取組」と「新たな取組の例」を紹介しています。

◆各駅のまちづくりのテーマと将来イメージ図

(仮称)No.5駅



帰ってきたいと思える緑のまち

(仮称)No.3駅



ここから広がるクロスポイント

(仮称)No.1駅



“あの”武蔵村山へようこそ

(仮称)No.4駅



桜舞う憩いのまち

(仮称)No.2駅



おせっかいがつなぐ灯(あか)るいまち

第6章 まちづくりの進め方 (素案p.93～)

- モノレール延伸部の開業時期を見据えたまちづくり
モノレール延伸部の開業時期を見据えて様々な取組を実施していくことを説明しています。
- 協働によるまちづくり
まちづくりは市民、事業者等、市の協働で進めていく必要があることから、それぞれの役割や協働によるまちづくりの手法を説明しています。

問い合わせ先

武蔵村山市 都市整備部 都市計画課 沿線まちづくり係
TEL 042-565-1111 (内線279)

